

河川の連携・地域をつなぐ明日への水 思川開発

思川だより

独立行政法人水資源機構 思川開発建設所

環境保全の取り組み

環境保全地の現状について報告します



環境保全地は、道路工事等により改変された自然環境の代償として、多様な動植物の生息・生育環境の創出を目的として造成した人工の池とその周辺のエリアです。この保全地については、在来の自然環境の保全に配慮し、可能な限り人の手は加えず、自然の遷移にゆだねていくことにしています。

【造成後3年目に入った環境保全地】 平成24年3月に池を造成してから、今年で3年目に入りました。この保全地はもともと杉林であった場所を造成したのですが、日照条件が改善されたことにより、池周辺では様々な植物が成長し、これらを利用するバッタやチョウ、トンボなどの昆虫や鳥の種類や数も増えてきました。

また、池の中では造成後早くからカエルの卵塊が確認されていましたが、最近ではアメンボやミズカマキリなどの水生昆虫も棲み始めており、良好な水辺環境が創出されつつあると考えられます。池・草地・樹林が連続的なつながりを持った環境になるにはまだまだ時間がかかりますが、これからも環境の遷移を見守っていきたいと考えています。

思川開発建設所では、今後も環境保全のために様々な対策を行いながら事業を進めて参ります。

池の周辺で確認された昆虫たち



【ニホンカワトンボ】



【ツマグロバッタ】



【ヒメアメンボ】



【ミズカマキリ】

地質技術を担う専門家集団が現場見学会を開催

公益社団法人地盤工学会関東支部栃木県グループ



【事業概要説明】

去る7月29日、公益社団法人地盤工学会関東支部栃木県グループの皆さん（27名）が付替県道工事現場を見学されました。この見学会は、会員の地質技術の向上を図ることを目的に、毎年、現場にて開催されており、今年は、当思川開発建設所の現場が選ばれたものです。

見学会は、思川開発建設所で事業概要の説明を受けた後、岩盤の斜面が観察できる付替県道粟沢7工区工事の現場にて、岩盤の切通しや、擁壁工事の状況を見学されました。参加の皆さんからは、「岩盤の掘削面や地表に表れた部分では、大昔の地層の状況が良く分かった」、「付替県道工事では、各所に景観や環境面に配慮した施工がなされている」などの感想が寄せられました。

思川開発建設所では、このような取り組みを通じ、技術者の皆さんの技術力の向上に役立てていただきたいと思います。



【付替県道粟沢7工区】



【現地での説明】

9月1日 防災の日

大規模地震を想定した防災訓練を実施しました！！

9月1日は、防災の日ですが、思川開発建設所では、大規模地震の発生を想定した震防災訓練を実施しました。

訓練では、まず、地震発生情報の伝達と事務所参集の非常招集の訓練から始まり、次に、防災本部を設置し、各班に分かれて、庁舎点検、事業用地（貯水池及び取水放流工）及び水位計等の施設の現地巡視、また、想定した被災箇所の応急復旧対応等の訓練を行いました。

今回の訓練では、庁舎内が停電したと想定し、ポータブル発電機の設営・起動試験等の訓練を、また、現地巡視では、事業用地内で携帯電話が届かない場所があるため、衛星携帯電話の使用訓練も行いました。

訓練終了後の反省会では、参加者から今回の訓練の成果や反省点が出されましたが、これらを踏まえて、迅速な対応が可能



【訓練実施中の表示と発電機】



【防災本部の様子】

となるように、防災意識の向上と非常時の態勢の充実を図っていきたいと思います。

この訓練から半月後の9月16日、茨城県南部を震源とする地震が発生し、当建設所で定める基準地点の震度が規定の震度を超えたため、警戒態勢に入りましたが、今回の訓練の経験を生かした対応を行うことが出来ました（巡視点検の結果、この地震による施設等への被災はありませんでした）。

思川流域のご紹介

第1回 思川の名前の由来について

思川は、足尾山地にある地蔵岳に源を発し、途中、栗野川、南摩川、大芦川、黒川、姿川などを合流し、渡良瀬遊水池にて渡良瀬川に注ぐ、延長約78kmの河川です。

思川とは、ロマンチックな素敵な名前ですが、どのような云われがあるのでしょうか。



【胸形神社（小山市寒川）】

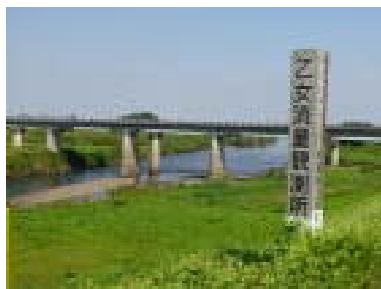
○思川の名前の由来の一つは、水に縁のある女神で「田心姫命（たごりひめのみこと）」に因んでいると云われています。

小山市にある胸形神社（むなかたじんじゃ）の祭神は、「田心姫命」ですが、これに因み、はじめは、「田心川」としていたのですが、いつしか二字を一字に縮めて、「思川」になったと伝えられています。同じ小山市にある「網戸神社（あじとじんじゃ）」にも、同様の由来が伝えられています。

○思川の名前にまつわる伝説もあります。昔、若い夫婦が住んでおりました。仲良く幸せに暮らしていましたが、妻が病気になり寝込んでしまいました。夫は、妻の病気が早く治るようにお祈りをするため、毎晩、妻に黙って家を抜け出し、神社にお詣りをしていました。ところが、妻は、毎晩、夫が黙って家を抜け出すのは、他に好きな女の人が出来たの



【網戸神社（小山市網戸）】



【小山市乙女付近を流れる思川】

ではないかと思ひ込み、ある晩、後を追いかけてました。途中で、川のふちに寄って水を飲もうとすると、そこには、嫉妬に狂った自分の姿が、大蛇と化して写っていました。余りの醜さに、思い沈んでその付近をさまよい、川に身を投げて亡くなったということです。姿を写した川を「姿川」、思い沈んでさまよった川を「思川」、と呼ぶようになったと伝えられています。（出典：「下野の伝説（尾島利雄編著・第一法規）」から抜粋）



トピックス

許さない！！ 不法投棄

監視カメラと電光警告表示板を設置しています



【監視カメラ】

思川開発建設所では、事業用地内への不法投棄を防止するための取り組みとして、第42号（平成25年10月号）でご紹介したとおり、関係者以外の進入を禁止した柵や不法投棄防止看板の設置、更に、警察との合同パトロールを行うなど、対策の充実に努めています。

その一環として、南摩ダム事業用地内に監視カメラを設置し、併せて、事業用地の入口となる県道上久我栃木線三ッ石橋付近に電光警告表示板を設置しています。この監視カメラや電

光警告表示板によって、より不法投棄の防止となるように、その効果を期待しています。

また、これらの機器は、不法投棄を防止する目的のためばかりでなく、監視カメラは降雨時の河川状況の確認として、電光警告表示板は大雨等による通行情報をお知らせする表示として、有効に活用していきます。



【電光警告表示板】

★事業者の皆様へ（お知らせ）★

水資源機構では、この10月1日から電子入札の運用を開始しました。入札にご参加いただくためには、電子証明書（ICカード）とカードリーダー及び電子入札システムへの利用登録が必要となります。

このことにつきまして、詳しくは、当思川開発建設所にお問い合わせいただくか、当建設所ホームページ『新着情報』の「電子入札の運用を開始しました」をご覧ください。

○ 職員の異動（転出及び転入のご紹介）

転出) お世話になりました。

10月1日付 総務課 村井 英克（本社経営企画本部技術管理室へ）
第二用地課 岩原 典和（千葉用水総合管理所へ）

転入) 宜しくお願いします。

10月1日付 総務課 長谷川 功（本社財務用地本部財務部から）
第二用地課 小川 和弘（豊川用水総合事業部から）

編集 後記

通勤途中から見える田圃の稲刈りは今が真っ盛り。実りの秋、本番です。本号から、シリーズとして、思川流域の地勢、歴史、文化等をご紹介していきたいと思えます。第1回目は、「思川の名前の由来」です。

読者の皆様におかれては、お気付きのことがあれば、是非ご連絡下さい。

編集・発行



独立行政法人水資源機構 思川開発建設所

〒322-0305 栃木県鹿沼市口栗野 839-2

Tel (0289) 85-1110 Fax (0289) 85-1211

<http://www.water.go.jp/kanto/omogawa/index.html>